2025 年度 OITDA セミナー

インターオプト 2025 開催初日の 11 月 12 日（水）13 時から 16 時 20 分に、パシフィコ横浜 アネックスホール F204 において、2025 年度 OITDA セミナーを開催した。今年度は『光が拓くビジョンテクノロジー』をテーマとして、「XR」、「メタレンズ」、「空中ディスプレイ」、「ビジョンテクノロジーの技術動向」に関する 4 件の講演を実施し、延べ 301 名が参加した。

講演 No.	講演タイトル／講師（敬称略）
1	XR 体験を変える！AR/VR ヘッドマウントディスプレイの最新動向と技術トレンド Lambda Works 代表　　井出 昌史
2	オプトルのメタレンズ実用化への取り組み 株式会社オプトル　ビジネスインキュベーションセンター オプティカル研究グループ　エキスパート　　藤村 康浩
3	空中ディスプレイと空中結像技術の展望 株式会社アスカネット　空中ディスプレイ事業部 スペシャリスト　　大坪 誠
4	リアルとサイバーをつなぐ空間メディアの展望　～非接触･非装着の表示技術を中心に～ 宇都宮大学　工学部基盤工学科 情報電子オプティクスコース　教授　　山本 裕紹

以下に 4 件の講演概要を記す。

Lamda Works の井出 昌史氏による『XR 体験を変える！AR/VR ヘッドマウントディスプレイの最新動向と技術トレンド』と題した講演では、AR/VR ヘッドマウントディスプレイの光学技術と最新動向及び XR 応用（医療・製造・教育など）の実例や次世代の XR 体験を支える光技術の進展の展望について講演していただいた。XR 技術と AI の融合により、私たちの情報との関わり方が根本的に変わる時代が到来しているとのことであった。

オプトルの藤村 康浩氏による『オプトルのメタレンズ実用化への取り組み』と題した講演では、究極の薄型・小型化を実現できる可能性があるメタレンズの実用化に向けたオプトルの取り組みについて講演していただいた。オプトルで長年にわたりマイクロレンズアレイやフォトニック結晶といった微細加工デバイスで培ってきたマイクロ・ナノ加工技術を生かして、現在は LiDAR やカメラレンズ、AR/VR グラス向けへの展開も期待できるメタレンズの開発・量産化を目指しているとのことであった。

アスカネットの大坪 誠氏による『空中ディスプレイと空中結像技術の展望』と題した講演では、アスカネットが開発した画期的な空中結像技術（無数の微小な鏡を用いた「2 面上下直交リフレクタ」で構成された透明な平面 Plate で、対象物からの散乱光を無歪で面対称に結像させる）による空中ディスプレイと将来の展望について講演していただいた。将来の空中結像技術に向けた現状の課題解決には、高視野・薄型化・立体表示が今後重要なブレークスルーとなるとのことであった。

宇都宮大学の山本 裕紹氏による『リアルとサイバーをつなぐ空間メディアの展望～非接触・非装着の表示技術を中心に～』と題した講演では、リアル（現実空間）とサイバー空間を融合する「空間メディア」の技術動向（光集積回路を用いる表示技術や次世代ディスプレイ技術など）と、非接触・非装着インターフェース技術を中心に今後の応用の展望について講演していただいた。空間メディア技術を応用した新産業創出には、研究段階から国際的なルール作りが必要であるとのことであった。

各講演とも多くの方にご参加いただき、終始盛会であった。

会場の様子-1

会場の様子-2（質疑応答）

Lamda Works　井出 昌史氏

オプトル　藤村 康浩氏

アスカネット　大坪 誠氏

宇都宮大学　山本 裕紹氏